

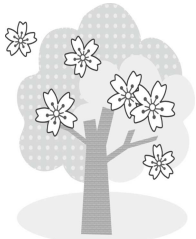


所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2020年4月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス tokolabo2013@gmail.com ホームページ <http://children-foundation-tjimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつも「とこらぼ」にご支援いただきありがとうございます。9年ぶりに常磐線が全線復旧というニュースを目にしました。もう9年も経ったのか、そして、復旧は喜ばしいことなのかと複雑な思いが広がります。というのも区間内には、未だに高線量のため立ち入り禁止となっている地域が存在するからです。もちろん経済的復旧は必須のことですが、本質的な豊かさにおいて、健康で安心できる暮らしが大前提だと感じます。では、自分たちにできることは、何か？常にそれを問い続けながら、活動を続けていきます。今後もお力添え、よろしくをお願いいたします。



新型コロナウイルス感染拡大の影響により、

当面のとこらぼの活動について次のようにさせていただきます。

- ①映画会、講演会等のイベントは、当面の公共施設の利用が難しいので、感染が終息するまで中止とします。
- ②公開測定は、気になる食材などスタッフで測定し公開します。
- ③測定依頼は、今まで通り受け付けます。

●「とこらぼ」のつぶやき

現在、福一（福島第一原発）で敷地内に設置した処理水タンクが、後2年で満水（約137万トン）になるという事です。核物質を含む処理水を法定基準値まで薄めて海洋放出（費用34億円）か蒸発処理する方向で東電・政府などは検討してきました。結果、一番安く処分できる海洋放出で決まりそうです。

処理水は、ヨウ素129やトリチウム(T=3H)を含む63種の核種を取り除くことができないのが現状です。それを県外も含め海洋放出するとのことです。

ヨウ素129は震災直後に問題となったヨウ素131と似ていますが、半減期は1570万年という長い歳月です。トリチウムは、三重水素とも呼ばれ半減期は12.3年で、処理水の中では水分子の一部として水の状態となっています。トリチウム水は小腸や大腸などから体内に取り込まれ、血管を通り各細胞内まで運ばれ、β線を出すことで内部被ばくします。その後、腎臓や皮膚、肺などから排出されます。また、自然界で生体濃縮されることも懸念されます。

トリチウムは自然界にも微量に存在していましたが、核実験や核施設からの排気や排水により急増してきました。世界各国の核施設でも核汚染物質を海洋放出していますが、法定基準値であれば、安全という事はなく、放射線による健康影響、海洋・大気中の動向も完全にわかっているわけではありません。そのような中で、処理水タンクが満水になり、自然界にもあるからと海洋放出をしてもよいとの見解です。

一方、近畿大学と東洋アルミの大学ベンチャーによるトリチウム分離や日大工学部のトリチウム見える化などの、新処理方法の技術革新も期待されています。

東電や政府は 海洋放出が一番よい、安全で問題ないという考えですが、今一度、健康への影響、風評被害などを考慮して、考え直す道もあるのではと思います

●「とらぼ祭り」で「日本一大きいやかんの話」上映会を実施

とらぼが誕生して今年の1月で7周年目を迎え、恒例の「とらぼ祭り」を、1月26日所沢市こどもと福祉の未来館で開催しました。「日本一大きいやかんの話」の現役高校生監督・矢座孟之進さんをお迎えして、上映会とトークを行いました。

午前、午後2回の上映会にはたくさんの方が来場されました。映画は大好評で、矢座監督のトークに続いて参加者から次々と質問や感想が寄せられました。監督への期待と激励、共感の声とも取れる内容でした。

映画は、米国の物理学研究者や東京工業大学の原子力研究者、原発を推進しているフランスの原子力参事官、東京電力の担当者など、原発に対してさまざまな立場の人を取材し紹介しています。

監督は、原発賛成派と反対派の橋渡し、という思いで作られていて、制作を終えた監督の心境は「原発反対・賛成の中立の立場にいて葛藤が起きている。原発と向き合えるようになったことを誇りに思う」と結んでいます。

続編の制作にも着手しているとのこと、参加者からの応援募金も集まり、最後はとても暖かい雰囲気にも包まれた会場となりました。

とらぼにも「ぜひ活動を続けてください」「応援しています」というメッセージを頂き、心新たにした「とらぼ祭り」となりました。



●矢座監督からのメッセージ

僕はこれまでお誘いいただいた上映会は毎回受けてきて、自分でも上映の依頼をたくさんしてきました。そして、時間とお金の許す範囲でなるべく上映会に参加してトークをするようにしています。それは、これが僕が初めて作った作品であると言うこともあって、なるべくたくさんのフィードバックをいただきたいからです。

まず初めに今回の上映会を実現して下さった「とらぼ」様に感謝するとともに、上映会に来て下さった皆様に改めて感謝したいです。たくさんのお褒めの言葉や応援のお言葉をいただきとても嬉しかったです。

これまでの上映会では、地層処分や再処理、低線量被曝など比較的映画の内容に関する質問が多かったのに対して、今回はたくさん僕自身に関する質問が多い上映会でした。なぜ、この映画を作り始めたのか、制作中の苦労や、僕の原発に対する考えの変化など、今まで深く考えていなかったことまで深く質問をしていただき、思考の整理をすることができ、初心に戻れたような気がします。

初心に戻れたことで改めてなぜ僕がこの映画を作らなくてはいけないのか、なぜ上映を続けなくてはいけないかを再確認することができました。今まで上映会は映画のフィードバックをもらって、映画をよくするためのものだと考えていましたが、今回の上映会ではトークを通して自分の思考を整理することで、自分自身が成長できた会でした。ありがとうございます。

原発賛成派と反対派の橋渡しまでは、まだまだ遠い道のりではありますが、皆様に「日本一大きいやかんの話」よりもよい作品をお見せできるように、また、僕の成長した姿をお見せできるように全力で頑張ります。この度は本当にありがとうございました。 矢座孟之進



(後列右から3人目が矢座監督です。)

●公開測定の実験から

とらぼでは、測定依頼のあった試料とは別に、ひと月に一回程度、スタッフの用意した試料で公開測定を行っています。最近行ったものとしては、埼玉県産菌床椎茸(2019/11/21)、群馬県下仁田町産キウイフルーツ(2019/12/19)、タラコ(北海道産2020/2/6)、福島県産米を使った酒粕(2020/2/21)、所沢市南永井産イチゴ(2020/3/5)などがあります。



測定結果については、いずれもセシウム(Cs-137, Cs-134)は不検出でした。これらのものは、いずれもスーパーや道の駅等で一般に購入できるものであり、世の中に食材として流通していることを考えた場合、不検出という測定結果は、安心できるものです。



測定方法ですが、測定器に入れるために、予め乾燥させておく必要のあるもの(椎茸等)や、煮ておく必要のあるもの(タラコ等)があります。そのように前処理をした試料を、当日集まったスタッフで細かく切り刻んだりして測定容器に詰める作業を行います。作業は、ゴム手袋をして、消毒等衛生面にも十分配慮して行っています。これは、測定する試料に他のものが混入することで、測定値の信頼性を損なうことを防ぐためであることは言うまでもありませんが、測定値に問題がなければ測定後は、食べることが可能(たとえば、キウイフルーツはジャムにしておいしくいただきました)であり、貴重な食材でもある試料が無駄にならずに済みます。

このように、放射線の測定とは、理科の実験と家庭科の調理実習を合わせたものを想像していただければと思います。何か特別な、難しい敷居の高いものと考えていた方も決してそのようなことはありませんので、ぜひ参加してみてください。

調理は、人が生きていくために毎日必ず行われる行為です。その流れを整理してみると、1)何を食べるか、2)食べるものにあわせて食材と調理器具を用意する、3)手順を考える、4)調理する、5)食べる、6)片づけとなります。

これは、理科の実験の流れと全く同じですが、調理の場合は、多くの人が無意識のうちに行っているかもしれません。食材の安全なくして、食の安全・安心はありません。そのためにも、測定を続けていくことは大切なことです。

今回の公開測定は、たまたま食材ばかりになりましたが、食材以外にも土壌や焼却灰等の測定も行っています。

【とらぼ会員の声】

東村山市在住・濱野順子さんからの投稿をご紹介します。

2年前の「とらぼ」映画会後の交流会でのことでした。

「お茶を入れたら一煎目は捨て、二煎目から飲みます。」と発言された人がいました。

「え、なんと一番おいしい一煎目を捨てるのか。」

でも冷静に考えると、やはりそうなんだ。分かっていたはずなのに私の意識から薄れかけていた放射性物質による食品汚染は、まだまだ終わってはいなかったのですね。そこで資料を調べてみました。

世界各地の放射性物質の規制値を表したグラフを見て驚きました。日本の野菜の暫定規制値が、チェルノブイリ原発事故が起こったウクライナに比べて、セシウム 137 で 12.5 倍、飲み物の規制値はアメリカの 2000 倍、ウクライナの 100 倍、WHO の 20 倍です。日本人は事故後もたくさんの放射性物質を体に入れていたことが分かりました。

また放射性物質が体内に入り、血液などを通して全身にいきわたり内部被ばくとなる、と教わりました。体内に蓄積されると、骨や内臓にくっついて、そこから放射線を出し続け細胞や遺伝子を傷つけるのです。しかも 60 年後までも続くことが証明されているそうです。

今日本では、「食品は国の基準値を超える放射性物質は検出されなくなった」といわれていますが、だまされてはいけないことが分かります。

私たちが今できることは(食事を作っている者として) ①同じ食材を継続して食べないこと②野菜はよく洗う、上の葉は食べない③根菜は細かく切って茹でる、ゆで汁は捨てる。また、水は活性炭を通す、沸騰させる等です。意識して放射性物質を減らしていかなければいけないことを学びました。

原発事故があったこと、そしてその被害が人や動物、さらに土地や農業や漁業にも甚大な影響を及ぼして、まだまだ続けていることを忘れてはならないと思います。

私自身は、学ぶことと署名活動くらいしかできていませんが、人に伝えること(デモ参加も含めて)など微力ながら始めていきたいと思っています。

参考文献・「原発ゼロへ 1から分かる原発問題」

市川章人・小野英喜著

・「生活と自治」生活クラブ協同組合連合会発行



「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー
ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール：tokolabo2013@gmail.com 電話：080-6257-2306



「とらぼ」メーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。
登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。